

## 今年度研究主題および主題設定の理由

令和2年度研究主題

### 自ら問いを見出し、読み深めることのできる児童の育成 ～国語科「読むこと」の学習を中核に据えて～

#### ○主題設定の理由

##### 1. 国語科「読むこと」に焦点を当てた理由

はじめに、なぜ国語科「読むこと」を中核に据えようと考えたのかを述べる。国語科の授業について、前年度当初、本校の教員の多くから「何ができるようになるればよいのかが、わかりづらい」「児童主体で学習のめあてを作ることに苦労している」など教材研究に対する不安の声が多く聞かれた。児童の立場から見ても、国語科は「何ができるようになったのかよくわからない教科」「自分たちで課題をみつけることが難しい教科」であると言われることがある。そのような実態を受け、本校においては、国語科の授業について、「児童が問いを見出し、深く考えること（読み深めること）」の研究の必要性があると考えた。

##### 2. 今、求められる力と「自ら問いを見出すこと」

今年度より実施される新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が謳われ、授業では「学びに向かう力、人間性」「生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」の育成が求められている。つまり、研究部では誰かから問われて学び始めるのではなく、自ら問うて学び続けることができる児童の育成が求められていると捉えている。そこで、研究主題の一つを「自ら問いを見出すこと」とした。本校の児童は、学習意欲が高く、「疑問に思ったことは？」「もっと知りたいことは？」と問うと、たくさんの問いをつくることができる。しかし、それらが必ずしも、当該単元で身に付けさせたい知識・技能の習得や思考力、判断力、表現力の育成につながらない。本主題の指す「問い」とは、これまでの学習を生かし今後の学習につながる「価値のある問い」である。本研究では、学級全体が熱中して話し合っただけで考えを深め、読む力を高められる「価値のある問い」を児童から引き出すことをねらいとする。

### 3. 自ら「読み深めること」と研究の展望

ここまで「自ら問いを見出すこと」について述べた。これは、多くの場合、学習の導入場面でわたしたちが目指す児童の姿である。では、学習の中盤以降はどうであろうか。新学習指導要領の内容を受け、これまでの学習で得た「生きて働く知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」を活用して、未知の課題に立ち向かう児童の姿を目指したいと考える。しかし本校の児童は、授業の中で「前のあの学習で使った〇〇を使うと…」とこれまでの学習を活用したり、「じゃあ、こんな場合はどうだろうか」と広げて考えたりする力について、まだまだ育成の余地がある。つまり、当該単元でのみ使える内容知とは別に、単元をまたいで活用できる見方・考え方の育成が必要であると考える。それを国語科「読むこと」の学習で実現していきたい。

国語科「読むこと」の学習を通して、単元をまたいで活用できる見方・考え方を育むためには、授業で児童一人一人、そして学級集団全体として「深い」読みを重ねていくことが大切であると考えます。そこで、研究主題の一つを「読み深めること」とした。「深める」という言葉は抽象度が高く、「自ら問いを見出すこと」という研究主題前半部分に対して、具体的な児童の姿を思い浮かべることが難しい。しかし、教員一人一人が「本単元において「読み深める」とは何だろう」と自問自答し議論を重ねることこそが、研究主題に迫る授業づくりおよび教員一人一人の授業力向上につながる。教員一人一人が単元に応じた指導を展開することで「読み深める児童の姿」を具体化し、小学校6年間を通して児童に多様な学びを経験させることで、新しい時代に求められる資質・能力を育てていくことをねらいとする。

わたしたちは、「自ら問いを見出し、読み深めることのできる児童の育成～国語科「読むこと」の学習を中核に据えて～」という研究主題のもと、児童が「どうしてだろう?」「知りたい!」「もう一回読みたい!」という思いをもち、すすんで読むことを通して、自分たちの見出した問いについて熱中して議論するような授業づくりを行っていく。一つ一つの単元の教材研究に留まらず、小学校6年間を通して児童に学び方そのものを育むための研究を進めていきたい。